

“It’s an expression.”



中根貞幸

“It’s an expression.” カナダのある家庭に泊めていただいた時に初めて聞いた。日本人学生が多いパーティでもホストファミリーの誰かがそう言っているのを耳にした。何かの決まり文句を説明するために使われたようだった。これを「それは表現です」と訳してもあまり意味がない。面白い表現だと記憶に残った。

これを例示するのにお誂え向きのやりとりが Carolyn Ives Gilman の短編小説 “Okanoggan Falls” (2007) にある。町のどこかに昔の宝物が埋まっているという話を聞いたと言いながら Groton 船長が古いフランスの地図を取り出したときに、話し相手の Susan が笑いながら “You didn’t fall for it, did you?” と言う。すると船長は怪訝な顔をして “No, I didn’t fall down.” と言う。船長は英語が母語ではないが、英語はとても達者である。しかし、とんちんかんな応答なので、Susan は “It’s an expression, to fall for something. It means he was pulling your leg.” と説明する。ところが、また ‘pull one’s leg’ という熟語を使ったために事はややこしくなる。船長は “Pulling my leg. And so I was supposed to fall down?” と訊ねる。‘fall for’ という句動詞の意味が分からなかった相手に「倒れる」こととは関係なく、「一杯食わせる」という意味だと説明しようとして、またまた「一杯食わせる」という意味の熟語を使ったため、話がますますややこしくなるという落ちがついている。

‘fall for’ や ‘pull one’s leg’ は一般の英和辞典に出てくるし、詳しくは句動詞辞典やイディオム辞典を見ればよい。しかし、辞書で解決できるイディオムばかりではない。“She’ll end up on a milk carton.” と言われても、英語ネイティブでもピンとこない人がいるだ

ろう。文字どおりには「牛乳パックの上で終わる」という意味だが、そういう状況は想像しがたい。これは子供が誘拐されたりして行方不明になり、最後には、顔写真が牛乳パックに載るということを意味する。これを知れば、なぜ前置詞が *on* なのか納得できる。1980年代のアメリカで、行方不明者の捜索に協力する運動が乳業者を中心に行われた。やがて下火になっていったようだが、このような社会現象を知らなければ、この悲しい熟語の意味は分からない。イギリス英語にも ‘gone for a burton’ というイディオムがある。本来は「バートンビールを飲みに行った」ということだが、第二次世界大戦の頃に「行方が知れない→戦死した」ことを婉曲的に言うために用いられた。今では、年配のイギリス人以外にはあまり馴染みがないだろう。

“It’s an expression.” は、それだけでは意味が十分だが、“It’s an expression (of an idea).” のような文を単純化したものだと思われる。Gilman の例では、“It has nothing to do with someone falling or pulling your leg.” というような気持ちの表明で、*fall*, *pull*, *leg* などの語の指示的意味とは関係なく、それとは別のことを言うための表現にすぎないということだ。現に、“It’s just an expression.” と *just* を入れて強調することも多い。“It’s an idiom.” と言われた方が英語学習者には分かりやすい。しかし、言語学習にあまり関心がない一般の人には “It’s an expression.” と言う方が自然なのかも知れない。「どうしてそう言うのかは分からないが、そのように言うものだ」というようなニュアンスがある。“Why do you say so?” などとそれ以上は訊ねないのが礼儀だろう。

(なかね さだゆき・福井大学特命教授)



私の辞書指導方法 ——語法学習の伴侶として



中島 洋己

●『ジーニアス英和辞典』との出会い

1989年4月、高校生になったばかりの私が学校から指定されたのは、前年1988年の秋に発行された『フレッシュ ジーニアス英和辞典』だった。白いパッケージにピンクと金のライン。その名の通り新鮮なパッケージに見やすいレイアウト、そしてわかりやすい語法解説。私のお気に入りの辞書となったが、前年に入学した当時の高校2年生は1987年秋に発行された『ジーニアス英和辞典』を使っていた。担当の先生になぜ我々の学年は『ジーニアス』ではなく『フレッシュ』なのか尋ねると、「語数が必要以上に多く使いこなせない生徒が多かったから、今年は語数を絞った『フレッシュ』を指定した。悔しかったら君たちも『フレッシュ』を十分使いこなして『ジーニアス』を愛用できるよう頑張りなさい」と言われた。先輩たちが愛用する『ジーニアス』の黒いパッケージがやけにまぶしく映り、一層英語の勉強に精進した。

●『ジーニアス英和辞典』の特色

多くの方々に語られていることなので今更言うまでもないが、やはり一言でいえば「語法のジーニアス」。語法説明が他のどんな辞書より詳しく説得力がある。近年文法以上に語法に関する設問が多くなる中、次に来る目的語の種類、前置詞、二重目的語の可否、名詞の使い分け、単複の区別などわかりやすい表示や解説が嬉しい。さらに語彙数も必要十分に達しており、固有名詞、専門用語など『ジーニアス英和大辞典』の要素も大いに加わって長文を読む背景知識（スキーマ）の活性

化に役立つ。ただひとつ難を言えば改訂スパンが他の英和辞典より長く、第4版が発行されてこの秋で7年が経過する。この7年間で多くの時事英語、情報・ネット関係の英語が新たに加わった。それらを新たに加えた第5版の早期刊行を心から期待している。

●初期の辞書指導

正直に言って、十分な辞書指導・辞書活用が授業中にできているとは言い難い。本校では入学時に推薦辞書を2、3点挙げて必ず紙の辞書を授業に持参するように指導しているが、ほとんどの生徒が電子辞書を購入し授業中に活用している現状にある。確かに電子辞書の方がスピーディーで便利だという意見もあるし、私の指導法は「やり方が20年古い」と言われるかもしれない。しかし、私は紙の辞書を使うことが大切だと考え、以下のように指導している。

まず、今後受験指導をしていくうえでカギとなる単語（例えば動詞なら discuss, 名詞なら advice など）が出てくるたびに紙の辞書を使わせて一読させ、自分が大切だと思うところに生徒各自にマーカーをひかせる。discuss なら「他動詞」「～について話し合う」「前置詞 about は不要」「直後に人が来たら with が必要」などという絶対に知っておかなければならない事項をマークさせる（同じ紙の辞書を持っているわけではないので統一指導は難しいが）。その際、やはり『ジーニアス』の詳しさを群を抜いている。『ジーニアス』では単に「about 不要」という説明にと

どまらず、「～(×about, ×on) the problem」のように誤用しないための表記の工夫がしてあり、さらに discuss は後ろの前置詞の有無ばかりに注意が行って、後ろの文構造に関する語法がなおざりになっている事実にも触れ、「discuss 直後の目的語は名詞か動名詞、不定詞は不可、that 節も不可だが discuss the fact that S+V～の形で用いることは可」という趣旨の記載がある。ここまでくるともう圧巻の説明である。一段階上のレベルの語法説明を、詳しく、さらに生徒が目につけやすい語義欄に、はっきりと記載している。それが『ジーニアス』の特色である。

まずは電子辞書で『ジーニアス』を使ってみて、その詳しさに圧倒され、後日紙媒体の『ジーニアス』を購入する生徒も少なくない。

●語法問題集の功罪と「プラスアルファ」を果たす英和辞典の役割

昨今は各出版社がいわゆる「英文法・語法問題集」という、見開きで左頁に問題、右頁に解説、その下に小さく解答が載っている形式の問題集を発行している。これが高校生の間でもバイブル化しており、本校にも大学受験時までポロポロになるまで使いこなしている生徒が多い。確かに簡潔で的確な解説が書かれているが、その一方で生徒はこの2、3行の解説を読むだけで満足してしまう。挙句の果てには単語帳や語法問題集の索引でその単語を調べ、解説を読んでよしとしてしまい、辞書を全くひかない。

私はこの種の問題集の小テストを返却する際に毎回2、3語ほど最重要の単語を黒板に書き、その単語を家で英和辞典を使って調べマーカーをひかせている。辞書の説明が語法問題集以上に詳しくければ問題集の余白に必要事項を転記させている。あくまで各自の家庭学習に任せてあるので徹底されているか疑問ではあるが、プロである教師の眼で見た「この単語だけは絶対に語法を覚えて欲しい」という単語だけに絞って生徒に提示すれ

ば効果は大きいと思う。その点第4版では、重要単語は見出し語のすぐ下に最低限の必要事項が書かれてある。基本義、大まかな意味、簡単な語法、参照番号、そしてその意味のイメージなどここを見るだけでもかなりの情報が吸収できる。大学入試攻略のカギとなるもののひとつに give, get, take, have などのごく易しい頻出単語とその意味をイメージで覚え、前置詞等と組み合わせで使いこなしていくことがある。この欄はそのためにも大いに生徒の「味方」になってくれるのではないだろうか。このことだけではなく「2色刷の導入」(第2版)、『ジーニアス英和大辞典』から専門用語の抜粋・充実」(第3版)、「紙面サイズ拡大におけるゆったりとした見やすいレイアウト、周囲余白の充実、重要語の大見出し化」(第4版)など、改訂のたびに使いやすさ、内容とも確実に進化している。

●おわりに

英語を教える側からは電子辞書に関して負の面を多く耳にするが、何事にも負の部分につきものである。電子辞書にも紙の辞書にもいい面はたくさんある。電子辞書には迅速性、ジャンプ機能、履歴機能という「紙」より勝る機能がある。一方紙の辞書は高校2年生後半以降にじっくり腰を据えて英作文等に取り組む際、何度も根気強く使いこなすことによって初めてその良さを生徒が実感するのである。知っている単語を羅列したり習ったばかりの熟語を当てはめて使う作文のレベルから、日本語をパラフレーズし、カギとなる単語の語法をじっくり辞書で読んで認識し実際に自分で書いてみるレベルに移行する段階で紙の辞書はなくてはならないものになってくるのである。その大切な語法説明がどんな辞書よりもわかりやすい、そして読んでいて生徒の知的好奇心を大いに刺激するのが『ジーニアス英和辞典』である、と私は信じている。

(なかじま ひろき・浜松市立高等学校教諭)



「自分だけ」の辞書作りを ——自分で引いて、読んで、色付けする



松井 典子

私の高校生時代とは異なり、今はデジタルが流行の最先端で、大方の生徒には電子辞書の方が好まれる。生徒にとって紙辞書は「持ち運びに重し、鞆や机で場所をとる」「目的の単語や熟語を調べるのに手間と時間がかかって面倒くさい」ということだ。それでも紙辞書の方が英語学習にとってはよいと考えるのは、やはり、一覧性に優れているということと、印をつけるという能動的な作業をすることによって記憶に残しやすいということがあると思われるからだ。

1. 紙辞書の購入

本校では、1年生の入学時に紙辞書を購入させ指導をしている。どの辞書にするかはその学年によって多少異なるが、私自身が担当した年には、生徒のレベルにあっていることと使いやすさから、『プラクティカル ジーニアス』一本に絞るようになった。生徒全員が同じ辞書だと授業での指導が大変しやすく、生徒同士で助け合うこともできて効率がよいからだ。

2. 自分だけの辞書作り

新入学時には、『プラクティカル』の別冊付録や活用問題集を使って教えるが、私の場合はその後も3年間必ず毎時間辞書を一緒に引く機会を設けている。少ない日は1, 2回だが、5, 6回引かせる日も多い。1年生の最初は誰でも高校生になったという自覚と新鮮さから教師の言うことをよく聞くので、辞書指導の絶好の機会である。まずは、基本的な辞書の引き方を一通り教えた後、

教材に出てくる語句で重要な所には、自分の好きな色の色鉛筆で印をつけるように指示をしている。色をつけることによって、「ただの辞書」がどんどん「私だけの辞書」になっていく。意味や綴りや例文を忘れたとしても、また次に引いた時に「前にもこの語を調べたんだな」ということが認識できるし、学年が進めば同じ項を見ても理解度や内容の吸収の度合いが違ってくると思う。

3. 一緒に引く

とにかく授業において、一緒に辞書を引くことが大事である。電子辞書しか持っていない生徒にかぎって電子辞書も使いこなせず、目的の単語や熟語、そしてそれを使った例文が探せないのが実情である。紙辞書ならば簡単に探せるものが、電子辞書だと一覧性がないために見つからないのである。やはり、3年間授業中に辞書を頻繁に活用することが大切であると思う。

4. 本義と図によるイメージ作りとインデックス

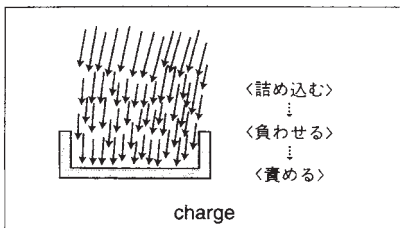
日本語の訳語に頼らず、まずその語の持つイメージを自分の中にしっかりと取り込むことが大切である。日本語にすると同じ「すべての」になるallとeveryの違いは、それぞれの項の最初の図を見比べれば一目瞭然である。生徒にとって紛らわしいshadeとshadow, cleanとclearも最初に図解を見ておけば、後で間違えることはない。

その他にもchargeという単語の図解は、訳語の展開にも結びつけられていて、とても参考になる。発音記号の隣に本義・原義の欄があれば、そ

*charge /tʃɑːrdʒ/ 〔原義「車に荷を積み」から「支払い・責任などの」負担を負わせる〕. cf. car, carry, chariot

index

- ④ ⑤ 1 請求する 2 つける 3 ゆだねる
4 指令する 5 責める 6 充電する
⑥ 1 支払いを請求する 3 充電される
⑦ 1 料金 3 責任 6 非難



の語の持つ根本の意味やイメージを確認させることができる。さらに図があればそれを参照し、この語の持つイメージを把握させることもできる。そしてインデックス欄を活用し、具体的にどこを見ればその意味が見つかるかを教える。さらにその単語や熟語・構文が使われている用例を読み、一緒に使われる前置詞や接続詞を確認しながらinputする。

5. 用例中の太字

『プラクティカル』の場合、頻繁に使われる表現は太字で書かれているので、教科書や演習問題の本文中にその表現がそのまま出てくることも少なくない。

*sta-tis-tics /statistiks/ ⑦ 1 [複数扱い] 統計(の数字) Ⅱ the recent divorce statistics 最近の離婚の統計 / Statistics suggest that the population of this town will be doubled in five years. 統計から推測すると、この町の人口は5年で2倍になるだろう。 ⑧ ⑨ 「統計によれば」は according to statistics / Statistics show that ... などともいい、一般的に言う場合にはいずれも無冠詞。 ⑩ ⑪ [単数扱い] 統計学[論]。

これを見れば、長文の教材の中の Statistics suggest that ... は「統計から推測すると…」というように日本語らしく和訳できるし、英文の意味もすんなり理解できる。また、その後に続く語法にも言及すれば、別の表現についても、生徒の頭の中を整理させることができる。

sense の場合も、太字にはなっていないが、

Man has five senses—sight, hearing, smell, taste and touch. の用例は、演習用の長文問題の中でもそのまま使われている。sense の訳語だけを確認するよりも、この用例ごと input する方がはるかに記憶に残りやすく実用的である。

6. 文法・語法と日英比較

3年生になると、生徒の方でも文法の面で比較できるようになってくる。「…であることを願う」という日本語に対し、I hope と I wish のどちらを使うのかという疑問に対し、hope の項を引かせると、そこに明確な答えが出ている。

また、我々が日常的に使っている「挑戦する」の場合も、challenge と try のどちらを使うかについて、その違いが日英比較の項目にきちんと説明されている。

7. word surfing

逆に、日本語のイメージは異なるが、英語では同じ word や phrase を使うこともある。stain (しみ) が「汚点、きず」の意味でも使え、さらに Will the coffee stain come off? の例文から、しみが「取れる」のは come off であり、button (ボタン) を引かせれば、ボタンがぼろっと取れる場合にも The top button has come off my blouse. の例文にあるように come off が使われることがわかるのである。つまり、同じ日本語の「取れる」という表現が、「消える」イメージでも物理的に「落ちる」イメージでも come off で表せることがわかる。

生徒は、自分の身の回りで起こっていることや状態について、「英語ではなんというのだろうか?」という関心を持っている。教える側が、辞書を引くことによっていろんな発見ができるのだということを教えてあげることが大切だと思う。

(まつい のりこ・愛知県立豊橋南高等学校教諭)



辞書指導の不易と流行 ——『ベーシック ジーニアス』を使って



西尾 克哉

1. 紙の辞書は素晴らしい

教育の現場へIT 機器がどんどん導入され、学習環境が大きく変わってきています。英和辞典に関しても最近では電子辞書を使う生徒が増えてきて、それを薦める学校も登場しているようです。しかし、辞書をツールとして使いこなすためにはまず紙の辞書を引きこなせるようになることが不可欠だと私は思います。電子辞書は携帯に便利で、英語ができる人にとっては強力な武器になります。その一方で、英語を学び始めた中高生には十分に使いこなすことは難しく、英語ができない要因になることが少なくありません。

電子辞書では用例や語法などを見るとときにその都度クリックしないとなりません。画面上に一度に表示される情報も少なく、スクロールする手間は面倒です。iPad さえ、一度に表示される情報量は少ないです。電子辞書で必要な情報を探り当てるためには、そもそも辞書にはどのような情報がいかに記述されているかを熟知し、それが電子辞書では階層化されて配置されていることを知らないとなりません。しかし、生徒はそれを理解していません。その結果、電子辞書を使う生徒にとって用例や語法などの情報はないに等しく、優先的に表示される日本語の訳語を求めるだけになってしまいます。また、語義訳語を比較検討するためにスクロールする手間を惜しむので、最初に出てくる訳語だけで処理しようとしています。

紙の辞書では語義訳語の後に用例や解説が続いて載っているの、紙辞書の利用を続けると、記載してある情報にどのようなものがあり、いかに

記述されているか、自然と知るようになります。基本語には非常に多くの情報が載っていること、品詞によって区分してあること、訳語以外に語法や文化的な背景に関する説明があること、そういう辞書の姿を知り活用できるように指導することが大事です。語義訳語や用例の比較、それに伴う語法解説などに目を走らせ、今必要としている情報に早くたどり着くために辞書で調べることを続けるとアイスパンが広がり、速読や情報検索の力を養う効果があるのではないかと思います。

2. 辞書のボトムアップ的利用

未知語が出てきた場合、英語が苦手な生徒ほど辞書の最初の方にある訳語だけを見てそれを無理に当てはめて sentence や passage を理解しようとしします。そこで私は適切な語義を見つけ出すために、まずその語と同じような用法の例文を辞書で探すよう指導しています。勤務校の2年生が使用している検定教科書 (*MAINSTREAM English Course II*) の英文をもとに、その実例を紹介します。

The shark came up and attacked me. It pulled me back and forth. It was about a three-second period. When it was attacking me, all I saw was like a gray blur. (Lesson 5)

この all の使い方と同じものを辞書の用例から探さない、という指示を生徒に与えます。その時、訳語から考えるのではなく、まず似たような形の例文を探すことが大事だと強調します。生徒の大半はなかなか探すことができません。all か

ら始まっている例文はないか、そういうヒントを与えながら何とか例文を探し続けることを促します。すると見つけた生徒から声が上がります。それに刺激され、何とか見つけようと一生懸命になる生徒も出てきます。『ベーシック ジーニアス英和辞典』（以下『ベーシック』）には適切で分かりやすい用例と解説（書き換え）が載っています。

All that is heard is the sound of waves. 聞こえるのは波の音だけだ（=I hear only the sound of waves.）

このような only のニュアンスを持つ all は非常に重要でよく出てきますが、最初に載っている語義訳語ではそれが全く分かりません。用例から単語を調べることが重要だと分かる好例です。

『ベーシック』は例文ごとに改行しているのだから求める例文が見つけやすく分かりやすいという特長があります。いくら重要な情報であってもゴツゴツ詰まりすぎていて生徒にそれが届かないのでは意味がありません。情報量の多さより、分かりやすさが初学者（一般の中高生）には求められる場合が多いということを強調しておきます。

同じレッスンからもう一つ。

After several attempts, she caught a wave and rode gracefully to the shore. The whole beach exploded in cheers and applause.

この whole も、しっかり用例や解説を見せたい単語です。『ベーシック』の例文では、

The whole village welcomed the president. 村中こぞって大統領を歓迎した《◆ all the villages は「全部の村」》

となっています。whole は形容詞だが、日本語では副詞が対応することが多い（「村の人はみな」）。用例の日本語訳を参照しながら、そういう解説が必要でしょう。辞書の記述だけですべて分かる生徒は少ないので、指導者の出番は決して減りません。むしろ、こちらの腕の見せ所と言えるでしょう。whole の項に載っているイメージ図に注目させることで、訳語だけに頼る学習から抜け出す契

機を与えることもできます。最近は認知言語学の影響もありコア・イメージを載せる辞書も多くなっていますが、『ベーシック』はその先駆けとも言えます。

このように演繹的に情報を検索することができない単語を帰納的に調べさせることによって、辞書の情報がどのように構造化されているか理解することが可能になり、その結果トップダウン的検索ができるスキルも身に付くのです。初学者にとっては、電子辞書が決して重宝ではないということが分かっていただけのではないのでしょうか。

3. 辞書を創る、辞書が創る

やさしめの高校生用学習辞書の多くは、色づかいも派手で紙面はげばげばしい感じがします。中学生用辞書と比べても幼稚な印象を与えるものもあります。それに比べて、『ベーシック』は非常に落ちついていて図書館で開けて勉強しても引け目を感じることはありません。このようなことは学習者にとって決して看過できない点であることを強調しておきたいと思います。紙の辞書は自分が調べたところに線を引いたり、付箋を貼ったり、書き込んだり、自分なりの学習の足跡を残すことができます。次に調べたときに、その足跡を確認し達成感を持ち、また辞書を開けたくなる生徒もいます。創っていく辞書としても、色づかいが控えめで余裕のある紙面構成が適しているでしょう。辞書を創り、辞書に創ってもらう英語学習、そういう手作り感が大事だとあらためて思います。

教育であれ、辞書であれ、高邁な理念が学習効果の高さを保証するわけではありません。生徒の現状に降りてきてくれ、そして引っ張り上げてくれるものが学習辞書として優れているのです。常に側にいてくれる頼りになる存在、そういう思いを一人でも多くの生徒が辞書に抱いてくればと願い、“私の”辞書指導を続けていくつもりです。

（にしお かつや・武庫川女子大学附属高等学校教諭）



中学校での辞書指導 ——百科事典的な辞書活用法



長久保 礼一

1. 目標

私は辞書指導の目標を、学習者が英語を読んだり書いたりする際に必要な情報を適切に得ることができるようになることにおいています。私の経験では、中学生あるいは高校生の典型的な辞書の使い方は、わからない単語に出くわした時に英和辞典を引いて最初の語義を一読して理解したつもりになるというものです。情報の宝庫である辞書を学習者が宝の持ち腐れにしないために、教える側は生徒に対して、辞書を引くことは知的好奇心を刺激してくれる楽しい行為であると実践を通して伝える必要があります。本稿では、中学2年生の終わりに、春休みの課題テキストとして生徒に読ませた副読本 (*Marcel and the Shakespeare Letters*, Stephen Rabley 著, Pearson Education) をもとに、筆者が授業で行った辞書指導を紹介します。

2. 百科事典的アプローチ

2.1. 品詞と意味

辞書を引く際には、単語の品詞を特定しなくてはどこを見てよいのか迷ってしまいます。テキストの中に出てきた2つの英文を見てみましょう。

(1) He's a detective and he lives in Paris.

(2) His old friend — Henry — has a small flat there.

(1)の detective, (2)の flat の意味を辞書で調べさせる前に、その品詞を生徒に問います。(1), (2)とも不定冠詞 a が付いていることからそれぞれの単語の品詞は名詞であることを生徒に確認させ

ます。その後、一緒に辞書で名詞の項目を見て意味を確認していきます。(2)の flat においてはアメリカ英語 apartment との比較が書かれています。このような記述にも十分注意を向けさせます。というのも、辞書を引く最大の楽しみはこの寄り道にあるからです。

生徒たちは簡単な単語ほど改めて辞書を引いて意味を確認する作業を怠ります。訳してみても違和感があつたら常に辞書で確認するように私は指導しています。

(3) It (=A sign) says: Professor J. T. Barton

(3)における says では『ベーシック ジーニアス英和辞典』(以下『ベーシック』)の動詞 say の 4a を見ることで、その正確な意味を理解できます。このような作業を通して最初の語義だけを見ているだけでは適切な情報は得られないということを生徒たちは知ることになります。

既に意味を知っている前置詞の場合でも、辞書を百科事典的に活用することができます。

(4) The two friends sit in big chairs.

(4)では動詞 sit と in が共起しています。どのような椅子なのかと生徒に投げかけてから『ベーシック』で前置詞 in の『「包囲・包含」が基本的意味』という記述を読むと、sit on との違いが鮮明になり、2匹のネズミ (the two friends) が椅子に深く埋もれるように腰かけているイメージが湧いてきます。

前置詞 in が「包囲・包含」のイメージをもつことを理解すると(5)の英文に対する理解も深まります。

- (5) He can see a person, too — a tall woman in a dress.

この場合は、身体が衣服で覆われた感じの「包囲・包含」が意識されるのではと生徒は答えてくれました。その後、一緒に前置詞 in の語義 4 を読んでその意味（「…を身につけて」）を確認しました。

2.2. 発音と意味

発音記号は中 2 の最初の段階で一通り学習済みですが、一般的に言って、英語を習い始めて間もない頃は発音記号を正確にすべて覚えているということはありません。『ベーシック』では発音にカナ表記が付いているため、中学生にとっては大きな助けになっているかと思われます。

- (6) ‘Aha!’ Marcel says.

この aha ではどこを強く読んで、どんな時に使用する単語なのかと生徒にあらかじめ問うてから一緒に辞書で強勢の位置を確認します。

- (7) I want to give them to the British Museum in London.

カタカナ語で慣れ親しんでいる「ミュージアム」は英語でどのように発音するのかと投げかけて辞書の発音項目を確認させます。そこで、カタカナ語との強勢のズレを意識し、正しい発音を学ぶことができます。

- (8) There’s a big hole at the back of the safe, ...

(8)では hole に注目させます。黒板に hall と書き、hole との発音の違いを生徒に問います。その後、辞書の発音項目を見て二重母音と長母音の違いを理解させます。

このように工夫を凝らした問いかけを通すことで、辞書が意味だけではなく発音に関しても様々な情報を与えてくれるということを学習者は理解してくれます。

2.3. 2 語以上で意味をもつ単語の場合

英語学習者が辞書を引く作業が難しいと感じる理由として、イディオムなどの 2 語以上のまとま

りが 1 つの意味を表すものが探しにくいことが挙げられます。

- (9) ‘Oh, you want to look at the Shakespeare letters’ He smiles. ‘OK. Why not?’

この場合の why not は個々の単語の意味は習得済みでも、まとまった意味を生徒たちは知りません。そこで、まずは中心となりそうな語を辞書で引いて記述を上から順に追って丁寧に見ていくよう指導しています。これは紙の辞書の最大のメリットで、このような寄り道を通して新たな発見をすることもあるので、生徒たちにはこの作業こそ大事にするように伝えています。この場合、why を引いて語義 4 を見ると、そのまとまった意味が理解できます。

- (10) There are hundreds of people at Knightsbridge station.

この場合には、hundreds of を調べるにはどうしたらよいかと問うと、hundred を引いて見出しを上から読んでいくのだと生徒は答えてくれました。『ベーシック』では語義 9 でその意味が理解できることを一緒に確認しました。

次のように文型の知識を意識しないと意味を確認できない場合も注意を要します。

- (11) But then his mouth falls open.

(11)では fall を引いてから語義 12 の [fall C] の記述を読むよう伝えます。

3. まとめ

生徒に辞書を与えるだけでは有効に活用できるようにはなりません。教師がテキストを通して色々な状況に応じて辞書からどんな情報を引き出せるのかを具体的に説明し、そして一緒に辞書を引いていくことが大切だと思います。初期段階では百科事典的に辞書を活用し、多くの寄り道を通して、辞書が与えてくれる様々な発見の喜びを知れば、一生続いてゆくであろう英語学習はきっと楽しいものになると思います。

(ながくぼ れいいち・南山高等・中学校男子部教諭)



現役専門予備校での 辞書指導



吉田 明宏

●予備校での辞書指導

私は普段、現役生専門の予備校で、中1から高3に英語を教えています。学習段階に応じて、文法中心、英文解釈中心、実践演習形式、などと授業スタイルを使い分けているのですが、高校生に英文解釈の指導をする際には、初期の時間の多くを「辞書指導」に費やしています。

授業では、テスト時以外いつでも自由に辞書を引いてもよいルールにしており、「この単語を辞書で調べましょう」といった指示も頻繁に出すため、「英語学習を進めるためには、まず辞書が引ける人になってちょうだい」とお願いしています。

生徒は「辞書くらい引けるぞ」という顔をしますが、しっかりと時間をかけて繰り返し丁寧に指導をしないと、なかなか辞書を引けるようにはならない、というのが私の実感です。

●1つの語には複数の意味がある

生徒は、辞書を引いても、最初に目に飛び込んできた意味をそのまま書き写して目の前の英文に当てはめてしまいがちです。「1つの語には複数の意味がある」という、我々からすると極めて当たり前の事実を、生徒たちが痛切に実感する形で伝えるために、よく以下の例文を提示します。

Hunger drives the wolf out of the woods.

(空腹によってオオカミが森から出てくる)

driveには「追いやる」という意味があることを、辞書で確認させるための例文ですが、ために辞書なしでこの英文はどんな意味かと問うと、

×ハンガーさんは森の外でウルフを運転する。

×フンガーさんが森の外でオオカミをひく。

など、様々な珍解釈が飛び交います。上記の誤訳は、自分たちでもなんとなく「おかしいぞ」と思うらしく、たいていの場合笑いが起こります。

そこで、おもむろに「driveには『車を運転する』以外の意味があるから辞書で確認して、この英文を正しく解釈してみよう」と投げかけると、生徒たちは誰よりも先に正解しようと、嬉々として辞書でdriveを引き始めます。もちろん、文頭のhungerも調べるよう指示を追加します。

また、動詞は語法によって大きく意味が異なることを伝え、必ず語法表記を確認させています。

動詞の語法指導では、まず自動詞と他動詞に注意を向けさせる例として、stand(我慢する)やrun(経営する)をよく用います(×のついた日本語は実際に生徒が書いた訳例です)。

I can't stand the pain in my leg.

×私は足が痛くて立ち上がれない。

He runs a karaoke bar.

×彼はカラオケバーで走っている。

●成句を調べる

生徒は成句を調べるのが苦手です。語義にはよく目を通すようになっていても、成句を確認しない場合があり、in favor of... (…に賛成の)を含む英文を訳させるとfavorを「親切的な行為」などとしている答案がたくさん出てきます。紙辞書を使っている生徒は、少し視野を広げると、in favor of... という成句が目飛び込んできますが、電

子辞書の場合は「成句」ボタンを自ら押さない限り、in favor of ... にたどり着けません。一度も成句を調べたことがないという生徒にも毎年出会います。そういう時は生徒のもとに行き、成句の表示の仕方を教えるのですが、機種によってボタンの配置が異なりますので、ときどき家電量販店の電子辞書コーナーで最新機種に触れ、私自身が各メーカーの操作方法に慣れるようにしています。

●知った語こそ調べよう

上記の favor は「favor そのものを知らない→辞書を引いた→成句までたどり着けなかった」という例ですが、生徒が最も苦手とするのは「知っている語だけでできている成句」です。新出語を含む成句 (take O into consideration など) は、とりあえず新出語 (consideration) を調べようとするので、その際 (ついでに?) 成句も見ている、という習慣はつけやすいのですが、It is true ..., but ... など、そもそも辞書を引こうとしてくれません。「…は本当だが」と直訳でも済みますが、指導する側としては、これも成句として登録されている大切な表現であると伝えたいと思います。

予習時にこの成句を調べてくる生徒は1割にも満たないのですが、こういうときこそ成句調べの大切さを指導するチャンスです。「It is true ..., but ... を『なるほど…だがしかし…』と訳している人がいます」と紹介すると、一部の生徒からは、「それはやりすぎだろう」「適当に書いたんじゃないの?」という反応が返ってきます。そこで、「いや、これを書けた人は素晴らしい。成句として辞書に登録されているのをちゃんと調べたんだから」と褒め称え、みなが一斉に辞書で調べ始めます。こういう体験を何度も積み重ねると、「知った語も調べてみよう」という姿勢が身についていきます。

●固有名詞も調べよう

生徒はまた、大文字で始まる単語を見ると、勝手に人名だろう、とか、地名だろうと高をくくって辞書を引かないことがよくあります。前述の Hunger も、そういう思い込みが原因で珍解答につながった例ですが、本物の固有名詞も辞書で確認するよう指導しています。

先日、高1の授業で、Robinson Crusoe が英文に出てきたのですが、「クルーズ」「クルソエ」などが続出し、「ロビンフッド・クルーシオン」という、もはや原形をとどめていない謎の人物まで登場してしまいました。Einstein を「エインステイン」(ローマ字読み!)、Descartes を「デスカルテス」(なんとなく響きが強そう!?) などとする生徒もいます。辞書で確認することに加え、「アインシュタインやデカルトは、読めるようになっておいたほうがいいよ」と指導しています。

また、有名人でなくても、よくある人名は記載されています。以前 Susie を「スシエ」と微妙に日本人っぽい名前に訳した(?) 生徒がいましたが、そうしないためにも辞書で確認する癖をつけさせています。

●「辞書さえあれば読める」を目指して

指導が断片的で一過性のものにならないよう、英語科の有志が集まって作成した辞書指導用のワークブックを使い、発音表記や語形変化、品詞の識別法、形容詞の限定用法と叙述用法の違い、などを取り上げて、辞書を最大限に活用するための体系だった指導を行っています。

どんなに英語を学び続けても、知らない単語はなくなりませんが、生徒たちに「辞書さえあればどんな英文でも読める」という自信をつけさせることができれば、その生徒は一生、英語と積極的に関わってくれると思います。そのような生徒を一人でも多く世に送り出したいと思いつつ、今日も教壇に立っています。

(よしだ あきひろ・研伸館講師)

『ジーニアス英和辞典』を支える 辞書用紙の秘密

吉村 隆重



●紙の種類

紙は、新聞・書籍・辞典・コピー用紙・包装紙などの「紙」と段ボール・菓子箱などに使われる厚い紙である「板紙」に分類される。ここで紹介する、『ジーニアス英和辞典』（以下『ジーニアス』）などの辞典に使われる辞書用紙は、「紙」のなかでもとくに薄く、^{うすよう}薄葉印刷紙と呼ばれる。2200ページを超える『ジーニアス』を、教科書で使われるような紙で作ると、現状の倍ぐらいの厚さになってしまうので、薄葉印刷紙で刷る必要がある。このほかにも、私たちが日頃手に取っている辞典に使われている紙には、さまざまな工夫がされている。その秘密に迫ってみる。

●辞書用紙の秘密

〈その1〉しなやかさ

辞書用紙は写真1のように、辞書を引いた際にある程度開いていることが要求される。そのため、他の用紙と比較してしなやかな紙となっている。



(写真1)



(写真2)

写真2は奥から高校英語教科書 *Compass*（大修館書店）の本文用紙、コピー用紙、辞書用紙を紙の筒（直径6.5cm）に巻いてみたところである。手前の辞書用紙が最もしなり、筒にまきつくようになっていることがわかる。

〈その2〉薄さ

ページ数の多い辞典に使用される辞書用紙は、可能な限り紙を薄くする必要がある。紙が薄いかどうかは、 1 m^2 あたりの重さ（ g/m^2 ）でわかる。『ジーニアス』に使われている紙は 1 m^2 あたり33gで、これは、2枚重ねのティッシュペーパー（ $28\text{ g}/\text{m}^2$ ）より厚く、新聞紙（ $46\text{ g}/\text{m}^2$ ）より薄い。

また1枚あたりの厚さは $38\mu\text{m}$ （ $1\mu\text{m}=1/1000\text{ mm}$ ）で、これは髪の毛（直径約 $50\mu\text{m}$ ）よりも薄い。

紙を薄く作り上げるには、重いロールを何本も積み重ねたスーパーカレンダーという装置で強い力をかけ、紙をしごく。すると、しなやかでなめらかな辞書用紙ができあがる。

2272ページもある『ジーニアス』が約50mmの厚さに収まるのも、紙を薄く作ることができる技術があればこそである。

〈その3〉めくりやすさ

辞書用紙には、引く際のめくりやすさが求められる。映画『舟を編む』の中で「ぬめり感」という言葉が使われていたが、その「ぬめり感」が辞典を引く際のめくりやすさである。紙をめくるときに、紙が指に吸いつくようにめくれ、しかも紙同士がくっついて複数の頁が同時にめくられないようなことを意味する。

紙のしなやかさと、紙のなめらかさの関係から、「ぬめり感」というものが生まれ、それが辞典のめくりやすさにつながるのである。

〈その4〉透けないこと

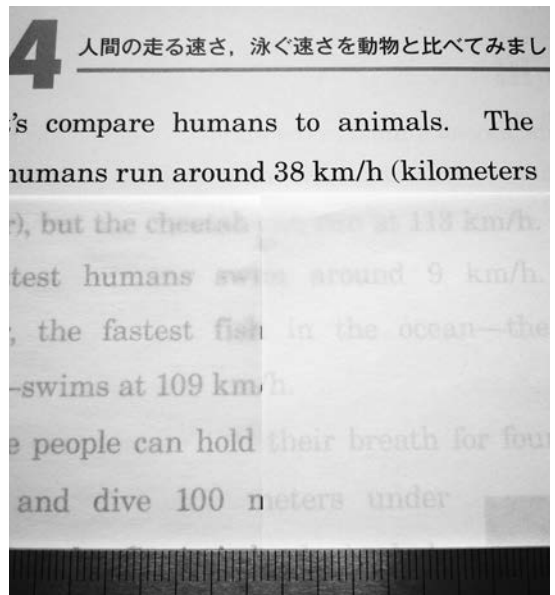
紙を薄くしていけばいくほど、紙は透けやすくなる。辞書用紙より薄いティッシュペーパーでは、向こうが透けて見える。辞典の場合には、裏の文字が透けて、文字が読みにくくなってはいけなないので、辞書用紙はいくら薄くても、透けないように工夫されている。

紙には、木材から取り出した植物繊維が漂白して使用されているが、さらに透けないようにする（不透明度を上げる）には、チョークの粉のような白い粉が用いられる。

辞書用紙には、歯磨き粉にも使用されている合成炭酸カルシウムが多く配合されている。さらに白くするためには、自動車の塗料にも使われる白い粉である二酸化チタンを使用する。

右段の写真3は、同じ33g/m²の紙を英語の教科書に重ねた状態である。左の無填料紙（不透明度54%）は裏の印刷文字が読めるくらいに透けて見えるが、右の辞書用紙（不透明度81%）は裏の印刷文字がほとんど見えない。

実際の英和辞典では、表にも裏にも単語とその詳細な説明がびっしりと印刷されている。そのため、文字が見やすいように、薄い紙であっても、裏の文字が透けて見えないようにすることは、辞



(写真3)

典用紙では必須の要素となる。

このように、辞書用紙にはさまざまな工夫がされており、なおかつ小さな文字がつぶれることなくはっきりと読み取れるようになっている（印刷再現適性・写真4）。

表1は、教科書用紙、コピー用紙、辞書用紙を比較したものである。辞書用紙は、教科書用紙・



(写真4)

表1 紙の比較

	単位	教科書用紙	コピー用紙	辞書用紙	備 考	
坪 量	g / m ²	79	65	33	1 m× 1 m の重さ	
厚 さ	μm	75	81	38	1 枚の厚さ、 1 μm = 1 /1000mm	
不透明度	%	94.7	86.8	79.0	数値が大きい程、裏の文字を隠せる	
平 滑 度	表	456	99	143	数値が大きい程、凹凸が少ないので 鮮明な印刷ができる	
	裏	386	97	143		
引張り強さ*	縦	kg/15mm	6.6	7.3	2.7	15mm幅の紙が破断するときの荷重
裂 断 長	縦	km	8.53	11.43	8.47	長く垂らした時に破断するまでの長さ

*1995年以降は JIS の試験方法改定により kN/m が標準となっている。

コピー用紙よりも薄くて、なめらかさ（平滑度）ではコピー用紙よりは優れており、透けにくさ（不透明度）の点でも、教科書用紙・コピー用紙に引けをとらない紙であるといえる。

『ジーニアス』では、手に持ってページをめくることができるように、軽量化と適切なサイズが求められる。その制約のなかで、用例などを含む多くの情報を詰め込むため、細かい文字が使用される。英語教科書と英和辞典に使われる文字の大きさの違いは一目瞭然であり、辞書用紙には細かい発音記号なども含めて、印刷時の忠実な再現性が求められる。

●紙の歴史と辞書用紙

そもそも紙の歴史は、二千年前に遡る。中国で蔡倫により麻の繊維屑を網でこして乾燥させることで紙を作る方法が発明されてから、持ち運びやすい記録媒体として紙の存在が中国で広く知られるようになった。

この紙の製造技術が、朝鮮半島を通り日本へ伝搬し、7世紀の飛鳥時代には国内で紙を生産するまでになり、独自の和紙文化へと発展したとされている。

一方、シルクロードを通して古代中国の紙が中東諸国に伝えられたのは8世紀以降で、それまでの羊皮紙に比べ広い面積が簡単に得られるなど利点が多く、たちまち地中海を越えて欧州諸国へ広まり、ルネッサンスの波と印刷の発明により紙の需要増を引き起こした。その後、製紙機械の発明

や木材を原料に利用する技術の開発に至る。日本では、明治維新のころに北米から製紙機械製の安価な洋紙が大量に入り始めた。戦後の復興とともに日本の製紙産業も発展し、現在では世界有数の紙生産国となっている。

辞書用紙については、さまざまな紙の生産が開始されるなか、大正12年ころから生産が始まった。当時は、麻パルプを使用していたライスペーパー（たばこ巻紙）を前述のスーパーカレンダー装置に通すことで、平滑で緻密な紙を製造することに成功し、その後は木材パルプと填料の利用が研究された。

日本の和紙には雁皮^{がんぴ}を使用した薄い典具帖紙^{てんぐじょうし}や吉野紙があり、さらに山からとれる泥（石粉）を含ませる手漉き手法で造られる名塩烏子紙^{なじおりのこし}などの多彩な和紙文化が存在していたので、薄くて不透明な紙の製造技術のヒントが存在する良い環境にあったと考えられる。

以上、辞書用紙について紹介してきた。これから手に取られる際に、感触を味わっていただけたら幸いである。

【引用・参考文献】

- 1) 町田誠之：『紙と日本文化』日本放送出版協会，pp. 13-18, 1989
- 2) 原啓志：「薄葉紙の五十年」、『日本の紙パルプ産業技術史』紙の博物館，pp. 562-564, 2010
- 3) 原啓志，吉村隆重：「薄葉紙に要求される特殊性と軽量化，多色化への対応」、『紙バ技協誌』45 (10)，紙パルプ技術協会，pp. 1079-1094, 1991

（よしむら たかしげ・日本製紙パピリア）

特集2
副教材
活用法

生徒と教科書をつなぐ 『学習ノート』活用法

尾形 美和



本校の1年生は、『学習ノート』を予習のための家庭学習用教材として使用しています。授業では、きちんとやってきたかを点検し、正解を配布。生徒が各自で答え合わせをする時間を取っています。ステップを踏んで何度も読み、理解を深める構成ということもあり、生徒の取り組みは良好です。ただ、自分のことについて答える **Pre-Reading** の取り組みだけが不十分だったので、授業で、次のように一工夫してみました。

★活用例1★ 環境保護の優先順位は第何位？

Lesson 4 Borneo's Moment of Truth Part 3

Are these things important for you?

- a. food to eat b. a healthy body c. money
d. studying at school e. saving the rain forest

ほぼ全員の答えが全てについて“**Yes**”なので、1位から5位までの優先順位を付けてもらいました。次にその順位をペアで比較。すると、1位に food を挙げた生徒と money を挙げた生徒が自然にディスカッション開始。さらに全体で比較したところ、saving the rain forest が最下位に。ここで、この結果を受けて、考えてもらいました。“OK. Now I would like you to think about what we can learn from this result.” 生徒の表情が変わりましたが、なかなか答えが出ません。そこで、“I well understand that for most of you the least important thing is saving the rain forest. That's OK. And what is important here is that you realize it.” とコメント。すると、生徒の中から「だから環境問題は解決が難しいのか〜」とい

う声か。

★活用例2★ 森林伐採は単純な問題？

Lesson 4 Borneo's Moment of Truth Part 4

Do you think it is bad to cut down trees in rain forests? ☐ Yes, I do. ☐ No, I don't.

挙手で確認すると、ほとんどの生徒が“**Yes**”。そこで、“Do you still have the same answer?” と聞くと、数人から“**No**”という反応が。“OK. Keep this question in mind. I'll ask you the same question after studying this part.” そして、予告通り、授業の最後に再度同じ質問をすると、今度はほとんどの生徒の答えが“**No**”に。その後のやりとりは以下の通りです。

T: What made you change your mind?

S₁: Because, they need money to live.

S₂: Hunger is a serious problem.

T: Great. So, what is important?

S₃: Striking a balance between making some money and saving the forest.

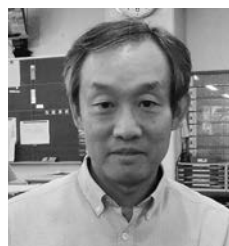
コミュニケーション英語 I では、教科書の英語を生徒の使える英語につなげたいと考えています。その中で、Pre-Reading は、生徒と教科書の距離を縮める役割を担います。身近で実感の持てる内容についてのコミュニケーションをすることで、教室に活気が生まれ、生徒は日本語が混じるものの、何とか英語を使おうとします。これからも、生徒とともに充実した言語活動ができるように、試行錯誤を続けたいと思います。

(おがた みわ・山形県立山形南高等学校教諭)

特集2 副教材 活用法

私の『学習ノート』活用法

宮崎 哲生



本校には総合進学コースと特別進学コースがあり、生徒の進学先もさまざまです。部活動も活発でインターハイの常連校でもあります。英語科の教員17名の思いは、「いかにして生徒に英語に興味を持たせるか？」ということで、特に教科書については生徒が興味・関心を持つような題材が重要だと感じています。

本校では『学習ノート』を、学習内容の復習だけでなく、授業中の活動にも活用しています。まず、「単語」の問題は、パート毎に単語を調べた後に、意味をしっかりと理解しているか確認するために取り組ませています。教科書では取り扱われていない用法も同時に掲載されており、単語の様々な語法に触れさせることができます。例えば、教科書では“I’ll miss you so much.”と「～がいなくてさみしい」という意味の miss が出ていましたが、『学習ノート』では“Takuya missed a chance to go to Canada.”という「のがす」という意味の文も載っています。様々な機会に単語の異なった意味に触れさせることにより、定着しやすい構成になっています。また、Lesson 毎のまとめでは、単語の定義が英語で説明されており、その定義に当てはまる単語を選ぶ出題形式になっているため、単語の意味を英語で考えさせる機会が増えると同時に、それにまつわる類義語も身につけることができます。私は英単語はそれ単体で学ぶのではなく、文全体で学ぶことを生徒に日頃から指導していますので、そういう点でも『学習ノート』の「単語」は、非常に役に立ちます。

「文法」でも、文法に関する質問に焦点を合わ

せるのではなく、文単位で語句整序や空所補充問題が出題されています。英語はやはり文全体で覚えると、たとえ完璧な英文が作れなくても、どうか自分なりに英作文しようとする気持ちにつながります。また、語句整序問題の場合、センター式に記号で答える形式ではなく、英文をすべて書かせる形式になっているため、重要なところも含めて生徒に英文に接する機会を与えられます。さらに、和訳がついているためそれがヒントになり、たとえ英語を得意としていない生徒たちでも取り組もうとする姿勢が見られます。

「表現」については、実用的な英語表現が多く含まれているため、単語単位ではなく文全体で覚えさせておくと、実際にコミュニケーションで役立つものが多いと思います。生徒たちに覚えさせたい英文を「表現」の中から3～5文ピックアップし、コーラスリーディングやペアワークによって丸ごと暗記するように指導しています。

英語は学問ではなく言語であるため、基本がしっかりと定着したあとは、ある意味「習うより慣れろ」が当てはまる部分もあると感じています。「内容理解」を指導する上で私が重点を置いていることは、自分の声で発音して自分の声を耳で確かめながら英文を覚えることです。「内容理解」に取り組むにあたりもう一度教科書を開かせて、内容を頭の中で思い浮かべながら3回音読するように、生徒に指示を出します。その後、「内容理解」に取り組ませると、スムーズに解答することができます。

(みやざき てつお・東海大学菅生高等学校教諭)

特集2
副教材
活用法

授業と連動してこそ輝く 副教材！



伊藤 智

副教材を授業と家庭でどのように併用しているかを紹介します。どんなによい副教材でも、授業と家庭の両方で使わないとそのよさが発揮されないと考えるからです。

◆『グラマーノート』で文法力・表現力を！

Departure English Expression I 教科書準拠ワークブック『グラマーノート』(以下『GN』)は練習量確保のために欠かせません。「Standard」「Advanced」のパートは家庭学習用として与えています。ただし、私が肝に銘じていることの1つに「学校でやらないことは家でも絶対にやらない」というものがあり、答え合わせは授業中に行うようにしています。一方、「Expansion」のパートには、教科書で全く扱われていない項目も登場します。例えば Lesson 6 では、〈ought to〉が『GN』にだけ登場します。従って「Expansion」は家庭学習にせず、授業中に解かせ、説明も丁寧にするようにしています。

私は、生徒に入試を超えた「使える英語」を身につけるモチベーションを維持させる方策の1つとして、「身の回りの英語表現に触れさせる」ことを心がけています。『GN』にはこれらがちりばめられています。例えば「お守り」「評判の映画」のような表現です。こうした表現にも目を向けさせると、生徒たちは「へえ～」と思いながら授業に臨んでくれます。

このように教科書と『GN』を併用すると厚みのある指導ができ、とても重宝しています。

◆生徒用と指導用の音声 CD 活用で定着を

音声 CD も充実しています。指導用 CD では、

例えば、各課の冒頭にあるモデル英文について、読むスピードが変わっていたり、ポーズが入っていたりするものなど数パターンが収録されています。私はまず教科書を見ずに普通のスピードで読まれているものを2、3度聞かせ、モデル文の概要を理解させています。その後各自で本文を読ませて細部まで理解させた後、リピート用ポーズが入ったトラックを使い音声変化の説明をしながら数回音読練習をします。続いて普通のスピードで読まれているトラックを使って数回シャドーイングをさせ、最後に「四方読み」等で仕上げます。さらに家庭で生徒用 CD (ナチュラルスピードのみ) で英文を定着させることもできるでしょう。

また、各課の「Get Ready to Express Yourself」「Get More Informed」などの問題の解答も音声収録されています。その答え合わせは、CD の音声を流し各自でそれを聞き取る形式で行っています。リスニングの練習にもなりますし、並行して音読練習もさせることができ、生徒を休ませずにすんでいます。こうして CD を活用することで、英語表現の授業中にリーディングやリスニングのトレーニングも可能になっています。

〈追記〉『ライティング・サポート・ノート』

Departure English Expression II の準拠ワークブック『ライティング・サポート・ノート』。家庭での予習や復習、さらには入試対策にも効果的に利用できそうな構成です。こちらも「是非使ってみてほしい！」とわくわくしているところです。

(いとう さとし・愛知県立一宮高等学校教諭)

特集2
副教材
活用法

「グローバル人材」育成のために



太田 伸子

■高専と「グローバル人材」

本校では20年以上にわたって、毎年、全新入生用教材として『カラーワイド 英語百科』（以下『英語百科』）を利用しています。その背景と使用状況の一部をご紹介します。

工業高等専門学校（以下高専）は大学・短期大学と並ぶ高等教育機関として創設され、高専制度は昨年50周年を迎えました。学生は中学校卒業後に高専に入学し、5年間の本科を終えると準学士を取得します。さらに2年間の専攻科を修了すれば学位授与機構から学士の認定を受けます。「楔形教育」により、本科1年生から、一般科目だけでなく専門学科の授業や演習があり、5年生で卒業研究発表を行います。本科卒業生の半数は国立大学に編入し、半数は就職します。企業からの信頼を得て、就職率100%を維持しています。また筆者の高専はJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、世界で活躍するエンジニアを育成する教育機関と認定されています。

これらの特徴と背景から、本校では、国際的視野を持つ「グローバル人材」育成の取り組みを行っています。たとえば、本科1年から5年、および専攻科1年から2年までの一貫した英語教育システムを構築して、学年ごとの到達度試験（TOEIC Bridge IP、TOEIC IPなど）を実施、ESP（English for Specific Purposes）の教材や談話分析関連教材の利用、学生によるプレゼンテーションなどを行っています。

■『英語百科』の利用

上記の取り組みの一環として、『英語百科』を

使用しています。自学習教材として各学生に個別に活用させていますが、授業においても不定期に利用しています。

教材利用は、主に低学年1、2年生（高等学校1、2年生と同年齢）の学生を対象としています。が、上級学年でも、さらに卒業して社会に出ても、参考になる有効な資料として保存するように、助言しています。

《活用例1》 環境問題で

第1章「地球環境を知ろう」は特に低学年への環境問題の導入に便利です。

本校では現代GP（文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム）や高専改革推進経費事業の採択以来、「国際的視野をもつ環境配慮型人材育成システム」を運営しています。エンジニアは特に「グローバルな環境配慮の視野」が求められます。高専の全国的なコンテストとしては「高専ロボットコンテスト」が有名ですが、他に「プログラミングコンテスト」、「デザインコンテスト」、「英語プレゼンテーションコンテスト」があります。各コンテストでも環境問題が重要なテーマとなっています。本校は英語プレゼンテーションコンテストのプレゼンテーション部門、スピーチ部門で全国優勝（2008年、2010年、2013年）するなど学生が活躍していますが、これらの学生が選んだテーマにも環境問題が含まれています。

《活用例2》 留学生とともに

第3章「近隣諸国を知ろう」は異文化・多文化・他文化理解の教材として有効です。

本校には国費留学生が3年生から5年生にかけ

てそれぞれ3年間在籍しています。学生のうち約280名は寮で生活していますが、同じ寮で留学生も生活しています。また学年制をとっているので、留学生は一般学生と全く同じように、同級生として「クラス」に在籍しています。したがって、高専生と留学生のかかわりは、大学生と大学に在籍する留学生よりも、さらに密接な環境であるといえます。留学生はウガンダ、ラオス、マレーシア、インドネシア、モンゴル、フィジー、カンボジア、ミャンマー、ベトナムなどからの非常に優秀な学生です。授業内のかかわりだけでなく、留学生講演会その他の交流も行っています。



留学生講演会

《活用例3》 国際交流会で

本校では「世界英語」の観点でさまざまな国からゲストを同時に複数招く「国際交流会」を年に3回開催しています。留学生がゲストの会もあります。



国際交流会

第6章「11 カタカナ語」「15 ボディーランゲージ」、および第7章「8 日本を英語で紹介する」は、国際交流会で学生たちが経験する困難な点に関連しており、発信型の英語技能にも重要な

項目で参考になる内容です。

また、「異文化理解 1～6」は非常に示唆に富んだ内容で、授業でも特に詳しく説明しています。

《活用例4》 英字新聞とともに

第7章「5 英字新聞の読み方」は、具体的に新聞記事の構成が説明しており、わかりやすい参考資料として活用しています。

英語の授業の初めに毎時間、「カレントトピックス」として、英字新聞のその時の代表的記事について見出しを中心に紹介しています。英語の学習と日常生活との関連性を実感させることが目的です。また prior knowledge として母語である日本語ですでに理解している記事の内容を英語で確認させることは、語彙増加に役立ちます。

■おわりに

政府は2003年に「英語が使える日本人」を、2008年に「留学生30万人計画」を、2012年に「グローバル人材育成戦略」を発表しました。また今や英語は、EGP (English for General Purposes) のみならず ESP (前述)、ESC (English for Specific Cultures)、EIL (English as an International Language) などの観点が求められるとされていますので、『英語百科』の教材としての役割はさらに大きくなっていると言えます。なお今後は、実験報告書、論文の書き方、プレゼンテーションのしくみなどの章も加わるとさらに便利です。インターネットで多くの情報が得られる時代ですが、手元ですぐに読める書籍の形態の教材の役割はこれからも重要であると思います。

高専は国際性をもった人材育成が特に求められている教育機関の1つです。各取り組みの指導法や『英語百科』の活用法をさらに工夫し、「グローバル人材」育成に努めたいと思います。

(おた のぶこ・石川工業高等専門学校教授)

特集2
副教材
活用法

単語学習に「楽しさ」を 盛り込むワザあり！



武田 一

■ガラパゴス化している英単語集

英語の指導法は進歩し、色々なメソッドが成果を収めているらしい。

単語集に絞って言うならば、同義語を一気に覚えさせたり、逆に1単語1つの意味に絞って覚えさせたり、似たような単語 adapt, adopt などと一緒に覚えさせたり、接頭辞や語幹を意識するように主張するものや、例文にアニメキャラを登用したり、「試験に出ない英単語」と日本の英語教育を皮肉のようなものである。

こういった様々なコンセプトを持つ単語集の存在は、学習者に「今度こそは興味を失わず続けられそう」という期待を持たせることを目的としたマーケティングの産物とも言える。そもそも、英語の学習が貧困からの脱出とは直接結びつきにくい豊かな社会である日本では、英語の学習には、動機づけと興味の継続という工夫が必要とされ、その結果、世界でも類をみないほど、バリエーティに富んだ単語集が存在し、英語関係の参考書売り場は、あたかも、携帯電話と同様、ガラパゴス化しているかのように思われる。

■学習者視点の『ジーニアス英単語2200』

私は『ジーニアス英単語2200』の編集に関わったが、その際に意識した視点は2つ。学習者の興味を引き続けるものであることと、指導者の扱いやすさということだ。

学習者、主に高校生が飽きないような工夫を随所に施している。これは、腹を抱えて笑うような例文を用いるということではなく、単語学習のお

もしろさを各自に発見してもらう工夫だ。例えば、adapt, adopt などの似たような単語は1ページ目と2ページ目に掲載し、「あれ？ 昨日やった単語に似ている？」と疑問を持たせ、学習者に敢えて前のページを確認させるようにした(p. 64, p. 66参照)。センターレベルの900単語が終わったところから、「語源でつかめ！」という接頭辞に注意させるコラムを設け、今までやってきた単語とこれから習う単語を接頭辞という視点で確認したり、推測する力を身につけるようにした。また、間違いやすい語法やコロケーションをGenius Pointとして、下段で二択で答えさせたりもしている。さらに、見出し語の右側に同義語を独立して記載しているので、見出し語から同義語、復習の際は同義語から見出し語と、確認しやすいレイアウトになっている。発見する楽しさと情報量が過多になることに配慮して、興味を持って反復学習しやすい工夫を施している。

■生徒、教師、単語テスト

英語科教員の立場からすれば、生徒たちの単語力をつけるために単語テストの必要性を感じつつも、単語テストそのものにおもしろさを求めることは難しい。一方、生徒たちにすれば、単語テストはつまらないものであり、単語集で覚えた単語に、単語集以外の場所で出くわす可能性が高くなければ、労多くして益少なしになってしまう。

『ジーニアス英単語2200』では、テスト範囲を指定しやすくするために、1ページの情報量を10ワードとし、また、センターレベル900語では、

頻度の高い単語を選んだのは言うまでもないが、特に、文法を学習する際に取り上げられる語を多く掲載した。さらに、掲載する際にも、あえて連続させることはせず、ページを変えているので、授業中に注意された単語が単語集の複数ページにわたって続き、記憶に留めやすい。このように、1ページまるまる未知の単語を覚えるという苦行をいくらかでも軽減する工夫をしている。

■問題作成ソフトを使ってあげた成果

もちろん、『ジーニアス英単語2200』には、問題作成ソフトも用意されている。英語から日本語を、日本語から英語を書かせる問題に加え、例文を使って英単語を書かせたり、和訳させたりする問題でも、それぞれ選択肢のあるなしを選択できる。また、こういった問題を組み合わせで独自のレイアウトも施すことができる。

問題作成ソフトを用い、実際に本校で行った取り組みを紹介したい。従来は英語の授業の中で単語指導をしていたのだが、朝のホームルームを使い、小テストという形で行っている。小テストは回収し、英語科の教員の手だけでなく、他教科の教員の手も借りて採点をする。体育科の先生方の手も。10題中8点が合格。不合格の生徒は、ペナルティーとして、間違えた単語や例文を書き直してから、グラウンドへ飛び出していく。

英語科以外の教員も採点するし、また、毎日の作業となるので、少しでも採点しやすくするために、解答欄を手作りし問題の下段に設けることにした。一度解答欄を作ってしまったら、印刷の際に挟み込むだけとなるのでストレスとはならず、採点の効率化をはかることができた。教員は採点した後、一覧表に得点を記入し、担任に渡す。担任によっては、大きな表をクラスの壁に張り出し、10点の者には金のシールをつけ8～9点のものには銀のシールを貼って、生徒の意欲を高めている同僚もいる。1クラスにかかる採点時間はおおよそ



問題作成ソフト画面

15分。これだけのことはあるが、今年は、国立大学の現役合格者が20名を超えた。スポーツ校としての評価をあげてきたものの、国立大学には毎年10名前後の合格者を出すのみであった本校としては、初の快挙であり、今回の成果の一端が全職員をあげての朝の小テストの取り組みであったように思う。「まるを付け続けてよかった。」当初尻込みしていた体育科教員からもそんな声があがり、報われた気分にもなった。

■単語集から飛び出したオリジナリティ

単語学習は一筋縄ではいかない。教員としての色々な角度からの生徒たちへの働きかけが何より重要だ。教科書で instruction が出てくればこんな話をする。

映画『スパイダーマン』で利用されたシカゴの電車の中で、こんな緊急時の警告表示を目にしたんだけど、と生徒に質問すると…。

Listen () instructions.

当然 to と答えが返ってくる。もちろん to でも正しい英語であるが、正解は for である。listen for で「耳をそばだてて聞く」となる。

こんな小ネタを集めながら単語指導が無機質にならぬよう楽しんでいきたいと思う。

(ただ はじめ・埼玉県武南高等学校教諭)

新版 教室英語表現事典

英語で授業を行うために

染矢正一 著

四六判・578頁
本体3600円＋税

[評者]

井ノ森高詩



教室英語表現の詳細な入門書 職員室の机上に常備したい1冊

英語の授業は英語で行うことを基本とする、と言われ新しい年度が始まりはや数ヶ月。頭に浮かんだことがスラスラと英訳されて、あるいは最初から英語が浮かんできて何の苦労も感じない英語教員がいる一方で、毎日のように頭を抱えたり冷や汗をかいいたりしている英語教員もいるのではないかと推測する。

例えば以下のような言い回しは英語では何と言えいいのだろうか。

「机がガタガタする」「机に落書きしないように」「行間をたっぷり空けて書きなさい」「マイクに向かって話さない」「3枚目の紙は汚れています」「ぼろぼろになるまで、辞書を使いなさい」「ちょっと脱線しましたが」

本書に目を通してながら、私自身が「これ、英語で何て言うかなあ、ああなるほど」と思ったものをいくつか挙げさせていただいた。皆さんはいかがであらうか。

生徒と相対する場面で使う英語表現のネタは、英語教員自身が生徒・学生の立場だった時に恩師が使っていた英語か、同僚であるネイティブ教員が使う英語かに頼らざるを得ない。しかし、そのネタ

にも限界がある。「こんな時には何と言えいいのだろうか、辞書ではこれといった表現が見つからないし、今日はALTは来ないし」という悩みに、本書は応えてくれる。

本書は考えられるありとあらゆる表現を場面別・機能別にまとめているので、読者は目次や索引を頼りに必要な表現を探し出すことが可能だ。

I「始業」着席、挨拶、出欠、遅刻、II「授業の前提」授業の前提となる環境、CALL教室などの設備・機器、規律、例外的状況、III「授業活動」授業開始、学習活動の提示、生徒とのやりとり、教室で使ういろいろなもの、授業後・家庭学習の課題、授業でよく使う表現、IV「授業内容」聞くこと、発音、読むこと、書くこと、作文、読解、単語・語い、文法、V「英語学習について」学習方法について、英語を学ぶ意義、英語や英語文化に関する知識、VI「テスト・試験」試験前後、試験問題指示文、採点・成績、VII「授業の周辺」連絡・相談など、教師についての質問、VIII「終業」終業間近、連絡・指示など、終業時の表現、IX「ネイティブスピーカーの英語表現実例」実例1～6

IV部は高等教育機関の教員向けかと思われるが（小中高の教員はこまでは必要ないと思われる）、I部からIII部までの表現は事典として検索するのではなく、表現集として読んで音読練習をしてもいいくらいだ。

困った時にすぐに開けるように職員室の机上に常備したい一冊である。

（いのもり たかし・
明治学園中学高等学校教諭）

学校用語英語小事典

[第4版]

竹田明彦 著

四六判・354頁
本体2200円＋税

[評者]

前田昌寛



学校教育に関するすべての用語が 網羅された実用事典

本書は、学校生活に関するあらゆる事物を英語で何というか、著者の長年にわたる高校現場での経験をとおして必要なものを集めた事典である。学校・職員室・教室の設備や備品の項からはじまり、生徒指導、生徒会、ホームルーム活動、クラブ活動、進路指導、各教科、学校行事、教育行政、教育に関する法律と学習指導要領などに関する用語、さらに試験や授業で使われる英語の指示文まで項目別に網羅されており、現場の教員には必携の一冊である。必要に応じて調べる検索性辞書として使えるほか、調べたい用語が収録されている項目内すべてに目を通してよくと周辺知識も身に付き、表現の幅が広がるであろう。

「用語事典」と聞くと専門用語が並ぶ堅苦しいイメージが先行するが、実は英語で授業を行うときに使えるクラスルームイングリッシュ集としても本書は実用的である。たとえば「答案を交換して採点」しなさいという指示は、exchange papers and mark them また「考えをまとめ」なさいという指示は organize one's thinking と書かれており、そのまま教室で使える表現である。授業は英語で

行うことが基本となったいま、このようなクラスルームイングリッシュが自然に飛び交う教室づくりが第一歩であり、本書はその期待に応える内容である。欲を言うと音声 CD が付属されていたら、本書の実用性がさらに増し、現場の教員の大きな手助けとなったであろう。

本書の最大の魅力は、単なる用語の羅列ではなく、実際の用例や用語解説がとても丁寧かつ豊富であることだ。これは新しく来日した AET (ALT) に日本の学校事情を説明するときに大変役に立つだろう。たとえば、「逐語訳をする」translate word by word という用語に関して「日本の生徒は少し難しい文章を読むとき逐語訳をしがちです。先生が全体の意味をとる方法を教えないからです」という用例がある。学校現場をよく知っている著者ならではの用例である。これに関して「言語活動」を多くし「ざっと目を通す」読み方を授業に取り入れてほしい、などの要望が AET に対して考えられるが、その際に必要な用語も本書ではしっかりカバーしている。

著者が、はしがきで指摘しているように「日本人は抽象的な単語は案外知っているが、具体的な身近にあるものの英単語はあまり知らない」ものだ。BICS (生活言語) レベルの語句が苦もなく表現できれば、CALP (学習言語) レベルへの移行はスムーズになるはずだ。

英語表現をはじめとする発信型の授業でも本書が活用されれば、生徒の BICS レベルの表現能力育成にも寄与するであろう。

(まえだ まさひろ・
石川県立金沢桜丘高等学校教諭)

英語学習者コーパス 活用ハンドブック

投野由紀夫・金子朝子・
杉浦正利・和泉絵美 編著

A5 判・258頁
本体2200円＋税

[評者]
仁科恭徳



隆盛を迎えた学習者コーパス研究

本書は、コーパス言語学と第二言語習得・外国語教育研究にとって待望の国内初となる英語学習者コーパス研究の概説書である。学習者コーパスの到来により、言語習得・教育に直接貢献するコーパスデータの獲得が可能となった。理論上でしか語られなかった仮説も検証可能となり、言語 (教育) 学関連分野において、その注目度が高まっている。特に、英語学習者の言語的特徴の頻度と分布を調査することで、新事実発見にも貢献している。

本書は、まず、学習者コーパスの歴史的概観と ICLE など代表的な英語学習者コーパスの概要に始まる。そして、日本人英語学習者コーパスを用いた先行研究の紹介や、秀逸な国内研究者による具体的研究事例の紹介へと続く。特に、コーパス分析の具体的な手法や方法論が分かりやすく提示されている点が本書の魅力だ。各章に設けられた「Technical Box」ではコーパス分析時に必要となるコンピュータ処理の手順や Perl などのスクリプトが詳しく解説されており、読者にはありがたい。本書のデータは研究用に公開されていることから、追従調査も可能である。

具体的な構成内容は以下の通り。第1章「学習者コーパス研究のこれまでとこれから」では、学習者コーパスの歴史と、設計基準や特徴を含めた世界中の学習者コーパスが紹介され、最後に各関連分野の研究における学習者コーパスの活用の可能性に触れている。第2章から第9章までは、具体的な分析事例がテーマとコーパス別に紹介されている。第2章「学習者英語の国際比較」では ICLE、第3章「学習者英語の談話分析」では LINDSEI、第4章「学習者英語のコロケーション分析」と第5章「学習者英語と母語話者との比較」では NICE、第6章「学習者英語の学習段階別分析」では JEFLL コーパス、第7章「CEFR 基準特性と学習者英語」では ICCI、第8章「学習者英会話データの分析」と第9章「学習者英語の自動分析」では NICT JLE コーパスを用いた分析事例が紹介されている。最後の第10章「学習者コーパスを活用した指導」では、現在までの学習者コーパス分析から獲得した知見を教育現場に活かすべく、コーパスデータを加工した練習問題の作成や、コーパスの分析に基づくセットフレーズの問題例 (クローズテストなども含む) などが紹介されている。

各章末には、ブックガイドや更なる発展研究の示唆がまとめられており、本書を通して学習者コーパス研究を真剣に学ぶ読者の方々には参考になろう。また、日々の授業に学習者コーパスのデータを活用して信頼性あるガイドラインを得たい現場の英語教員にも本書をお薦めしたい。

(にしな やすのり・
明治学院大学専任講師)

大修館書店の本

◆「知っている」から「できる」学力観へ
CAN-DO リスト作成・活用
英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック
投野由紀夫＝編
(A5判・322頁・CD-ROM 1枚・本体3,200円)

◆基礎知識を整理してわかりやすく提供
改訂新版 初級英語音声学
竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子＝著
(A5判・CD 2枚・76頁・本体予価2,300円)

◆異文化を学ぶプロセスで何が起きているのか
深層文化 異文化理解の真の課題とは何か
ジョセフ・ショールズ＝著 鳥飼玖美子＝監訳
(A5判・256頁・本体2,100円)

◆学びあい、高め合う21世紀型の英語授業
協同学習を取り入れた英語授業のすすめ
江利川春雄＝編著
(四六判・272頁・本体2,000円)

◆タスクに関する疑問がこの一冊で氷解！
タスクを活用した英語授業のデザイン
松村昌紀＝著
(四六判・320頁・本体2,400円)



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿（郵送のみ）をお待ちしております。（採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。）

なお、小社ホームページ「燕館」には小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

◆営業便り◆

▶日ごと秋の深まりを感じるようになりました。先生方におかれましては日々ご多忙のことと存じます。平成26年度用教科書ご採択の報が全国より寄せられています。ご採択いただきました先生方に心より厚く御礼申し上げます。

▶昨今の電子辞書は、辞書以外にも数多くの書籍を収載しています。辞書はもはやコンテンツの一部のようです。利便性やお買い得感から電子辞書を推薦する学校も多くありますが、結果的に辞書以外の書籍まで併せて購入させることになり抵抗があるという声も耳にします。受け止め方もさまざまです。

▶紙辞書にこだわる先生方も少なくありません。経験から、五感に訴える紙の感覚が学習に適していると感じていても、根拠がありません。以前、新聞紙上で言語脳科学が専門の東京大学・酒井邦嘉教授が、『脳を創る』ためには「紙の本」が必要と寄稿されていましたが…。

▶一方で書籍の電子化が急速に普及し始めています。いずれは紙という媒体で文字や装丁を楽しむことは贅沢な嗜好となるのでしょうか。

◆編集後記◆

▶今回の特集では、期せずして紙の辞書と電子辞書を比較した原稿が重なりました。あらためて現場の先生方が電子辞書に関心が高いことを知らされました。

▶1980年代にはすでに電子辞書が存在しており、マシンとしては30年以上の歴史があります。昨今の急速なIT化に比べ、意外に「枯れた」コンテンツものかもしれません。▶過日、東京地裁にて「自炊」代行禁止の初判決がありました。今まではIT機材の普及にともなって生じた現実に法律が追いついていませんでしたが、ようやく法廷という土俵が用意されたように感じました。

▶ただ、辞典の「自炊」は寡聞ながら存じません。生筍のようにページが多く「自炊」には向いてないからでしょうか。一番の理由は、辞書を引くにはその構造を取り込む必要があり、それが「自炊」ではこなせないからだと思います。ここにこそ紙の辞書が残る理由があり、発展する余地があるように受け止めています。（阜）

Genius・Compass・Departure

英語通信

第52号

2013年11月1日発行
(年2回発行)

編集人：©「G.C.D.英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話 (03) 3868-2292(編集部) / (03) 3868-2651(販売部)

【出版情報URL】 <http://www.taishukan.co.jp> 【振替】 00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕